

2027年度

受験用

国語

公立高校 入試セレクト 最新版

2026年実施問題収録

1

説明文・論説文 (1)

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、文章中の1～5は、段落を示す番号です。

〈静岡〉

問1 筆者は、――線「いま建てられている建築が建物としての寿命を本当に全うしているかは、甚だ疑問であるといわざるを得ない。」のように、新築工事の必要性について疑問を述べています。筆者が述べている、新築工事の必要性を考えると、住宅の新築着工件数に対して踏まえておくべき日本の現状を、二つ書きなさい。

問2 ☐ A Cに当てはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| エ | ウ | イ | ア |
| A 点 | A 線 | A 点 | A 線 |
| B 線 | B 点 | B 線 | B 点 |
| C 線 | C 点 | C 線 | C 点 |

☐

問3 **頻出** 文章中の④の段落は、文章の構成上、どのような役割を持っていますか。その役割を説明したものととして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ③の段落までの主張に反論する例を挙げ、②の段落で述べた仮説について検証している。

イ ③の段落までとは異なる視点を示し、②の段落で提起した問題に対する答えを導き出している。

ウ ③の段落までの内容を補足し、⑤の段落で述べる主張につなげている。

エ ⑤の段落で結論を述べるため、③の段落までの内容から仮説を立てている。

☐

問4 筆者は、開発が進んだ日本において、撤退によってどのようなことが可能になると述べていますか。建築における撤退の一つである、リノベーション的感覚とはどのような姿勢かが分かるように、五十字程度で書きなさい。

3

小説
(1)

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〔長崎〕

問5

【類出】

この文章の表現や内容について説明したものとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 過去と現在の場面が交互に描かれることで、千春がおばあちゃんとの関わりの中で成長する様子が伝わってくる。

イ 会話文以外にも千春の視点からの語りが随所に挿入されることで、自分を見つめ直す千春の心情が伝わってくる。

ウ カエルの鳴き声や小鳥のさえずりが描写されることで、登場人物の楽しげなやりとりの様子が伝わってくる。

エ 「……」や「――」が用いられることで、言いたくないことを無理に言おうとする登場人物の心情が伝わってくる。



2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、文章中の①～⑦は、段落を示す番号です。

〈愛知〉

6

古文

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〔長崎〕

旅の僧、しばらく人の許に逗留せしが、ふと出て行かんと思ひ立つ。

折節、

宿の主他行の刻なれば、借りて使ひゐたる金柄の小刀を、内の者にたしかに渡す。

外出している時なので

その家の者に

す。主人帰るに、うけ取りつる者、「小刀は、くだんの人とりて去にしにや、

〔小刀を受け取つた者は、

例の人が

出て行つたのが

無し」といふ。不審に思ひ、ここかしこ見廻しぬるが、かたはらの柱にかの僧

疑わしく

あちうちう探し回つたところ

わきの

の手跡あり。よめば歌なり。「小刀たしかに置く」といふ、十の文字を一首の

書いた文字がある

歌に書き置きし。

ここにきしかかる浮世かたびの身にながき情けをたのみてぞゆく
このまなづらに世に生きたらばここに来たる身の私に
長い間かけてくれた思いやりを頼りにして生きていく

〔醒睡笑〕より〕

〔注〕金柄＝高価な金の柄。柄は握る部分。

問1 線①「出て行かん」の意味として最も適切なものを次から一つ選

び、記号で答えなさい。

ア 出て行きたくない

イ 出て行こう

ウ 出て行つたのか

エ 出て行くだろう

☐

問2 線「使ひゐたる」を現代仮名遣いに直して書きなさい。ただ

し、漢字はそのままでもかまいません。

問3 次の【会話】は、生徒と先生がこの文章について話している場面です。【会話を】読んで、後の各問いに答えなさい。

【会話】

生徒A 僧は和歌で、どのような思いを伝えたかったのでしょうか。

先生 和歌の「たびの身に ながき情けを たのみてぞゆく」に注目して考えてみましょう。

生徒B 「たびの身」はⅠのことですね。また、「ながき情け」とは、一行目の「しばらく人の許に逗留せし」という内容を考えると、ⅠをⅡがⅩ ことについて表現したものですね。

生徒C 僧は、この和歌で感謝の思いを伝えたかったのではないでしようか。

生徒A なるほど、そうかもしれないですね。

生徒B 私は……線部が気になります。これはどういうことでしょうか。

先生 実はこの和歌には「杓冠」という表現技法が用いられています。ある言葉を一音ずつに分けて、各句の初めと終わりに入れるものです。「小刀たしかに置く」の十文字を和歌の中から見つけましょう。

生徒C 「小刀」にあたる四文字を丸で囲みました。「が」は「か」と表記されていますね。残りの文字も丸で囲みましょう。

生徒A 「をく」は「置く」のことですね。たしかに、和歌の中に「小刀たしかに置く」がありました。

生徒B 和歌にこの十文字があるおかげで、内の者がⅢ ことが発覚しますね。

生徒C 昔からこのような趣向を凝らした和歌がよまれていたのですね。

(1) I・IIに当てはまる人物として最も適切なものを次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 僧 イ 宿の主

ウ 内の者 エ 作者

I	
II	

(2) Xに当てはまる内容を十字以内で書きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(3) 新傾向 線②「残りの文字も丸で囲みましょう。」について、次の和歌につけてある丸印を参考にして残りの文字を全て丸で囲みなさい。

①ここにきし ②かかる浮世か ③たびの身に

ながき情けをたのみてぞゆく

(4) Yに当てはまる内容を十字以上二十字以内で書きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〈佐賀一般〉

ある時、鼠、老若男女相集まり、詮議しけるは、「いつも猫といふ徒ら者に

亡ぼさるる時、千度悔やめども、その益なし。かの猫、声を立つるか、然らず

は、足音高くなどせば、かねて用心すべけれども、ひそかに近付く程に、油断

して、取らるるのみなり。いかがせん」といひければ、古老の鼠、進み出て申

しけるは、「詮する処、猫の首に鈴を付けて置き侍らば、易く知りなん」といふ。

要するに

置きますならば

皆々、「尤も」と同心す。「然らば、この内より、誰出ててか、猫の首に鈴を付

け給はんや」といふに、上臈鼠より下鼠に至るまで、「我、付けん」といふも

のなし。これによつて、そのたびの議定、事終らて、退散しぬ。

そのごとく、人の健気だていふも、畳の上の広言なり。戦場に向へば、常に

兵といふ者も、震ひわななくとぞ見えける。然らずは、なんぞ速やかに、敵

国を亡ぼさざる。

(注) 詮議＝相談すること。

上臈＝地位の高い者のこと。

議定＝相談。

健気だて＝勇ましさを誇つてみせて。

兵＝武士のこと。

問1 線①「千度悔やめども」とありますが、鼠たちはどのようなことを

悔やんでいるのですか。次の文の に当てはまる言葉を、十五字以内で

鼠が こと。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問2 線②「易く知りなん」とありますが、どのようなことを簡単に知る

ことができるのですか。十字程度で書きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

弊社サンプルをご覧ください、
ありがとうございました。



紙面サンプルは ここまでです！

Bunri Teachers' Site へのご登録で、
全ページ見本^{*}と目次をご覧ください。

※一部教材を除く

会員登録はこちら



Bunri Teachers' Site とは？

株式会社文理が運営する、塾・学校の先生方のための情報サイトです。

文理の教材紹介



デジタルサービスや
テストのお申込み



教育情報の発信



オンラインセミナー
のお知らせ

